

『夢をかなえるゾウ』著者がおくる、 待望の小説最新刊！

「神様に一番近い動物 人生を変える7つの物語」3月11日発売

本書は、2008年に大ヒットを記録し、シリーズ累計310万部の『夢をかなえるゾウ』（飛鳥新社）の作者・水野敬也の作品で、そのブーム冷めやらぬ2009年頃から構想・執筆が開始されました。完成まで実に7年を要した寓話集となっています。

この『夢をかなえるゾウ』や、寓話集『四つ話のクローバー』（文響社）の系譜を継ぐ作品となっており、両作品と同じく、子どもから大人まで楽しんで読むことができる上に、学びが多く含まれた作品です。

7つの物語は、それぞれ世界観が異なります。それぞれの話は、ただ物語として面白いだけでなく、読んだ後に、生きる意味や、動物の犠牲の上に私達の生活が成り立っていることなどを考えさせてくれるようなメッセージがこめられています。それぞれの物語を紹介します。

裏面へ続く→



書名：神様に一番近い動物
人生を変える7つの物語
著者：水野敬也
定価：本体 1,380円＋税
判型：四六判並製 258頁
ISBN：978-4-905073-33-8



みずの けいや
水野敬也

愛知県生まれ。慶應義塾大学経済学部卒。処女作『ウケる技術』がベストセラーに。4作目の著書『夢をかなえるゾウ』はシリーズ累計310万部を突破し現在も版を重ねている。他の著書に『人生はニャンとかなる！』『たった一通の手紙が、人生を変える』『偉人たちの最高の名言に田辺画伯が絵を描いた。』『雨の日も、晴れ男』『四つ話のクローバー』『大金星』ほか、作画・鉄拳の作品に『それでも僕は夢を見る』『あなたの物語』『もしも悩みがなかったら』がある。また恋愛体育教師・水野愛也として、著書『LOVE理論』『スパルタ婚活塾』、講演DVD『スパルタ恋愛塾』や、DVD作品『温厚な上司の怒らせ方』の企画・脚本、映画『イン・ザ・ヒーロー』の脚本を手掛けるなど活動は多岐にわたる。

公式ブログ「ウケる日記」<http://ameblo.jp/mizunokeiya/>
Twitter アカウト @mizunokeiya



Contents



1 三匹の子ぶたなう

偉人の名言を引用し、過去に学ぼうとするオオカミ。オオカミは、童話『三匹の子ぶた』を読んだ上で、同じ過ちを犯さないよう、周到に豚を追い込もうとする。しかし、ワラの家にはいた豚は、そのオオカミを上回る、世紀をまたいだ準備をしていたのだった……。かつての童話の解釈をも変え、バージョンアップさせることを狙った意欲作。

4 役立たずのスター

ミュージシャンを目指すひとりの女性。ある日、流れ星(スター)が家にやってきて、「才能を持たずに生まれてしまった」ことの素晴らしさと可能性を説く。果たして彼が教えるスターの資格とは……？

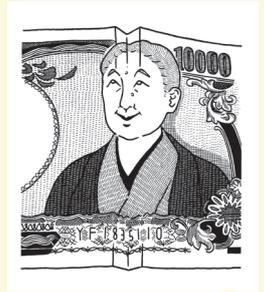


6 愛沢

商店街に突如現れた店『蕎麦 愛沢』。「お客様の笑顔が、私の笑顔なんでっ！」と笑顔で言い続ける店主・愛沢のもと、店はどんどんと拡大していく。愛沢は「他人を喜ばせることを自分の喜びにきなさい」という自己啓発書の教えを、体現するような存在だった。だが、同じ商店街に別の蕎麦屋を構える主人公は大きな不安を覚え、ある行動に出る……。

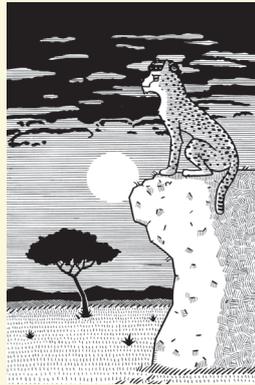
2 お金持ちのススメ

ある給料の低いサラリーマンが、酔った勢いで女の子に一万円札をあげてしまう。すると、一万円札の“諭吉”が家にやってきて“リアル慶應義塾”を開講。仕事をする意味と、お金に愛される方法を説き始めた。それは福沢諭吉の『学問のススメ』の忘れ去られた本質にも通ずるものだった……。

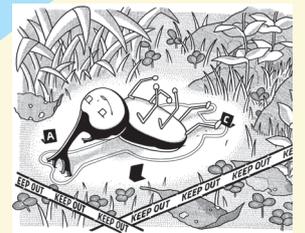


3 宇宙五輪

惑星同士の戦争を防ぐためにおこなわれているという『宇宙五輪』。参加することになったのは、自分の親を目の前で殺した人間たちに、恨みを持つチーター。動物と人間はわかり合うことができるのか、地球は誰のものなのか……。壮大な問いを、“宇宙でおこなわれるオリンピック”という設定にこめた感動のエンターテインメント作品。

5 スパイダー^{デカ}刑事 ～カブトムシ殺虫事件～

カブトムシの殺虫現場からこの物語は始まる。捜査にとりかかるのは、『飛んで火に入る夏の虫』『虫の居所が悪い』と虫にまつわることでわざとギャグを言うカタツムリ警部。そこに本庁から巢配田警部がやって来て、事件は解決に近づいていくが……。



7 神様に一番近い動物

「牛は神様の一番近くにいる動物です」と教えられてきた牛のマグー。しかし殺される日の前日にネズミのドロに出逢う。ドロに「お前は、『皮ジャン』になるんだ」と言われた牛のマグーは、牧場から脱出し、人間の暮らす街までたどり着く。そこで見たのは『キてる』という理由だけで、なんとなく革ジャンを着ていた人間の姿。マグーはこれまで信じて疑わなかった、自らの命を差し出すということの価値について考え始める。



リリースに関するお問い合わせ

株式会社文響社 広報担当

TEL : 03-3539-3737 / FAX : 03-3539-3738

E-mail : info@bunkyosha.com